



続・広島県立美術館ベストセレクション
平成27年度新収蔵品ご紹介!

児玉希望 (室内) 1952 (昭和27年) 絹本彩色

20th Anniversary Renewal Open: Hiroshima Prefectural Art Museum Best Selection Exhibit: Part 2/Works Acquired in 2015

リニューアル・オープン20周年記念
広島県立美術館 所蔵作品展

(平成28年) 2016年12月22日(木) ~ (平成29年) 2017年4月16日(日) 2階展示室

開館時間: 9:00 - 17:00

※ 3月31日までの金曜日は19:00まで開館、それ以降の金曜日は20:00まで開館 ※ 入館は閉館の30分前まで

休館日: 月曜日

※ 特別展会期中・祝日・振替休日を除く ※ 12/26~1/1までは休館
入館料: 一般 510(410)円、大学生 310(250)円

高校生以下無料

縮景園との共通券: 一般 610円、大学生350円

※ () 内は20名以上の団体



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白鳥線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぶる〜ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白鳥線沿い)



広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

press release

リニューアル・オープン20周年記念 広島県立美術館 所蔵作品展
続・広島県立美術館ベストセレクション
平成27年度新収蔵品ご紹介！

【概要】

リニューアル・オープン20周年記念

広島県立美術館ベストセレクション展 平成27年度新収蔵品ご紹介！

1968(昭和43)年に開館した広島県立美術館は、1996(平成8)年10月に現在の建物に生まれ変わり、10月6日のリニューアルオープンから20年の節目を迎えました。

開館以来、作品の寄贈など多くの皆様からご協力をいただき、現在の所蔵作品の総数は約4,900点にのぼります。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920-30年代の美術」「日本及びアジアの工芸」という三本柱を掲げ、その充実をはかってまいりました。中でも近代絵画とアジアの工芸作品は、「質」「量」共に国内外に誇れる充実したコレクションとなっています。

今年度の所蔵作品展は、そんなコレクションの特色が際立つ企画をとり揃え、4期に分けて開催してきました。第3期に引き続き第4期では、「続・広島県立美術館ベストセレクション展」と題し、当館を代表する名品の数々をご覧くださいます。また、「平成27年度新収蔵品ご紹介！」では、昨年度新たに収集した作品をお披露目します。

リニューアルオープン20周年という記念すべき年ということで、皆様にも心新たに楽しんでいただけるよう、作家や作品の解説も一新しました。装いも新たにスタートした今年度の所蔵作品展。何度でも見たい、と言っていただけの展示をめざし、職員一同、今後も努力を重ねていくことで、美術館を支えてくださる皆さま方への感謝の気持ちを表してまいります。

【内容】

続・広島県立美術館ベストセレクション展

前衛陶芸～伝統への挑戦

当館の工芸コレクションは、特別収集重点方針のひとつ「日本と(を含む)アジアの工芸作品」を基本に構成されています。これは他の美術館とは一味違ったコレクションを形成することを目指して定められたものです。秋の第3期では、日本近代陶磁、シルクロード・中央アジアの刺繍布スズニと民族衣装そしてジュエリー、そしてインド古更紗の作品群をご紹介しました。

今期、日本の工芸作品からは、戦後の前衛陶芸の旗手たちによる作品群を紹介します。

1948年、陶芸の伝統が息づく京都で、若手陶芸家であった八木一夫、鈴木 治、山田 光らを中心にして発足した前衛陶芸グループの走泥社。日本における現代陶芸の概念を覆し、前衛陶芸というジャンルを切り開きました。志を同じくする陶芸家たちは同グループに所属して作品を発表し、走泥社は50年の長きにわたって活動が続きました。

既成概念にとらわれず、自由な世界に飛び立った現代陶芸の造形世界に、みなさんも「自由に」向き合ってみませんか。



八木一夫 《盲亀》
1964(昭和39)年、黒陶

西洋美術 ～1920-30年代の美術

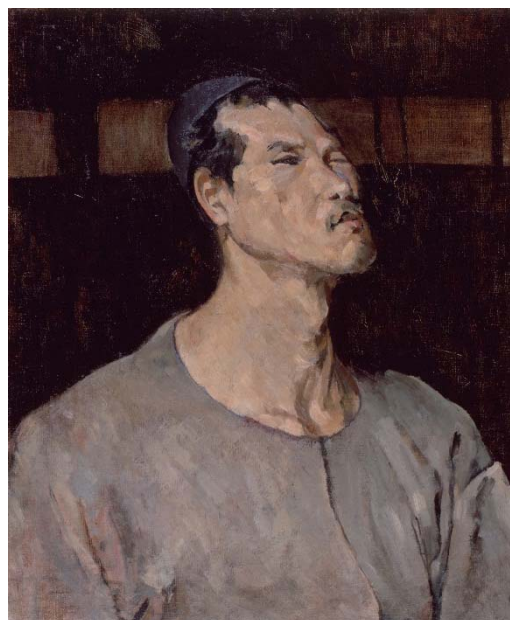
今期は、当館の所蔵する、西洋美術からシュルレアリスムを代表する作家サルバドール・ダリの《ヴィーナスの夢》などをご紹介します。本作は、ダリ最大級の作品で、毎年多くの外国人がこの絵を見に来館されるほど、国内のみならず海外でも人気の高い作品です。立体では、モビールと呼ばれる作品を初めて作ったアレクサンダー・コルダの《ヴァーティカル・ホワイト・フレーム》。この作品はコルダの動く彫刻の中でも最初期の作品として貴重なばかりでなく、影まで楽しめる作品として人気があります。



ライオネル・ファイニンガー 《海辺の夕暮》
1927年、油彩・画布

日本洋画 広島ゆかりの画家たち

続いて日本の洋画からは、広島ゆかりの作家に注目して、明治時代にアメリカやヨーロッパで本格的な西洋美術を吸収した小林千古や南 薫造。戦前の日本でシュルレアリスムを牽引した鬮光。そして戦後の抽象絵画を国際的にリードした菅井 汲。当館のコレクションの中でも粒選りの優品を揃えました。豊かな個性が織りなすハーモニーをお楽しみください。



鬮光 《帽子をかむる自画像》
1943(昭和18)年、油彩・画布

柿右衛門様式の優品 ～日本からヨーロッパにもたらされた輸出磁器

西アジアの金工品 ～イスラム金工の伝統

漆工の名品 ～日本が誇るJAPANの輝き

工芸のコレクションより、幾つかの視点による名品群をご紹介します。

常設展示の目玉作品として、重要文化財の「輪花鉢」や当館のマスコットの存在である「色絵馬」の「柿右衛門様式の優品」とともに、「漆工の名品」、「西アジアの金工品」という3つのテーマで作品をご紹介します。

江戸時代、オランダ東インド会社によって輸出された優美な磁器はヨーロッパの王侯貴族たちを魅了しました。そして、近世から近現代にかけての漆工からは各時代を代表する名品を。また、西アジアのペルシアで高度に発展したイスラム金工の粋を示す作品群はとりわけ国内ではなかなかご覧いただけない名品です。



《伊万里柿右衛門様式色絵馬》
17世紀後半 江戸時代、磁器・色絵

press release

リニューアル・オープン20周年記念 広島県立美術館 所蔵作品展
続・広島県立美術館ベストセレクション
平成27年度新収蔵品ご紹介！

日本画による人物表現のさまざま

日本画による風景表現のさまざま

今期の人物画は、歴史上の人物から画家の家族まで、幅広い画題をセレクトしました。その人の佇まいや、内に潜む心理など、人物をめぐる多彩な表現が見どころです。

風景画では、江戸時代以前に遡る名所を描いた屏風絵から、身近な情景のうちに、四季の移ろいや自然の生命を捉えた戦後の作品までご紹介します。

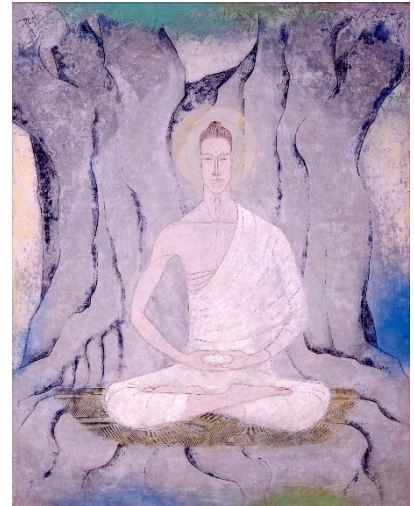
作品を通じて、自然を見つめる作家のみずみずしい感性に触れてください。

平成27年度新収蔵品ご紹介！

このコーナーから次の展示室にかけては、昨年度に新たに収集した作品をお披露目します。

ご寄贈・ご寄託していただいた作品は、彫塑・日本洋画・日本画・工芸の各分野にわたり、13作家49作品に及びます。彫塑では、郷土ゆかりの中谷翫古、上田直次の作品に加えて、ユニークな動物表現で人気の高い三沢厚彦の木彫が並びます。日本洋画には、石川寅治、吉田 卓に、機関士画家として親しまれた太田 忠の油彩画。日本画は、幕末・明治期に活動した名草逸峰と熊谷直彦、さらに工芸では、六角紫水、高中惣六、石井馨堂の漆芸のほか、実用の美を追求した船木倭帆のガラスがコレクションに新風を吹き込んでいます。また、重要無形文化財保持者(いわゆる人間国宝)の山本 晃による金作品にも注目です。

新たな仲間たちの、個性あふれる造形美をお楽しみください。



山中雪人 《樹下黎明》
1969(昭和44)年、紙本彩色



船木倭帆 《垂描文鉢》
吹きガラス

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

press release

リニューアル・オープン20周年記念 広島県立美術館 所蔵作品展
続・広島県立美術館ベストセレクション
平成27年度新収蔵品ご紹介!

【関連イベント】

※都合により展示内容やイベント内容に変更が生じる場合があります

リレートーク

各分野の学芸員が現在開催中の「続・広島県立美術館ベストセレクション展」に展示している名作の数々をご紹介する豪華なトークイベントです。

日時:2月3日(金) 15:00～(一時間程度)

場所:2階 展示室

※ 申込不要、要入館券。会場入り口でお待ちください。

※ 高校生以下、65歳以上の方は無料です。学生証および年齢のわかる証明書をご提示ください。

友の会ボランティアガイド

当館友の会ボランティアガイドが所蔵作品展についてわかりやすく解説します。

日時:平日14:00~/土日祝11:00～、14:00～(1時間程度)

場所:2階 展示室

参加料:無料

※要入館券(高校生以下無料)、申込不要

※12/26～1/4は休み。3/4は14:00の回のみ休み

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. ke.yamamoto@nomura-g.jp (山本宛)

担当 学芸課 藤崎 綾、山下 寿水

事業推進課 山本 恵子